

平家最後の嫡流六代



六代との縁も深い築上町の無量院（現：紫雲山長泉院）（吉水卓見氏著「源平合戦の残り香～無量院の六代」より）

平家落人の残影については、当欄でかつて北九州市門司区黒川東の殿墓を取り上げた際、平休息なる武者の子孫が、今なお「八木田氏」として先人の面影を伝えられていることを紹介した。それらをはじめ日本全国で展開された源平合戦、かの時代の残影は今なお各地に、一説では全国約130ヶ所まで伝わっているといわれる。今回取り上げる平氏最後の嫡流と言われる「平六代」（平高清）についての物語もその一つではあるが、源平激動時代の最後に現れたその悲劇の半生、時代は今も人を引き付ける。

残党狩りで六代斬られ 平家断絶と「平家物語」

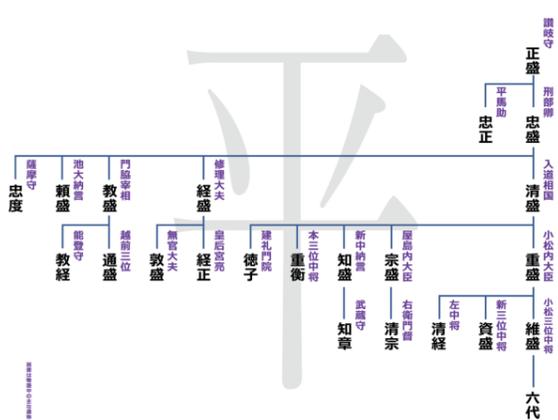
「平六代」とは、平氏の棟梁平清盛の長男重盛の孫、つまり清盛のひ孫で、平家嫡流でもあった平高清。桓武平氏の武門化、興隆の基礎を築いた平正盛から6代目で「六代御前」と呼ばれた。

豊前に隠れ住み仏道修行 築上郡の地元伝承

六代の物語については、築上町出身の歴史家・医師の吉水卓見氏（82）が最新発行の著書「源平合戦の残り香」無

書と。

先に、平家落人の伝説は全国130ヶ所も存在すると記したが、六代の地の他、西日本各地に幾つも残されている。熊本県八代市の平家の里、那須与一と鶴富姫の悲恋物語が伝わる宮崎県椎葉村、平家残党が住み着いたという広島県庄原市七塚原等、数多い。その伝承は今も人の心を揺るがしている。



量院の六代」で丁寧に紹介している。吉水氏は、平家一門の霊魂を鎮めるため清盛の長男重盛の御家人だった緒方一族が建立したといわれる無量院（現…長泉院）（築上郡築上町）の主。その書で、経緯は不明だが六代は豊前の八津田村（現…築上郡築上町）に落ち延びて隠れ住んだとされる言い伝えが残っている。当時すでに源氏の世になっていたため、一族は六代の存在を公にできず、所在を隠し通していた、と地元では伝承されているという。その著で、源氏の平家一族の子孫狩りで六代は北条時政に潜伏先で捕縛された。鎌倉に送られて斬首の運命になったが、源氏棟梁の頼朝と親しい京都・神護寺の文覚上人による助命嘆願で上人に預けられ、仏道修行に励んだとされる。

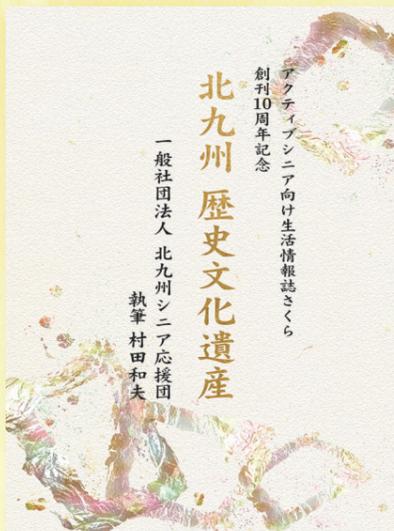
一方で「平家物語」では、六代は文覚上人からの助命嘆願により命拾いし仏道に励んでいたが、その後については巻第十二「六代被斬（きられ）」の項で、六代御前の青年への成長に危機感を覚えた鎌倉方は「平家の公達、武門としての気概は失つてはいまい」として召し捕って関東へ下し、駿河国住人岡部安綱に命じて相模国の田越川（現…神奈川県逗子市）で処刑、命を奪ったと記している。

「平家物語」はこの巻の最後に、こう記した。「十二の歳より卅（三十）にあまるまでもちけるは、ひとへに長谷の観音の御利生とぞ聞こえし。それよりしてこそ、平家の子孫はながくたえにけれ」（平家一族絶滅した） 応安3年（1370年）11月廿九日 仏子有阿

ついに完成 創刊10周年記念

北九州 歴史文化遺産

北九州の知られざる史実を独自取材で記した記事の集大成です。ぜひお手にとってご覧下さい。



◆発行 一般社団法人 北九州シニア応援団
◆執筆 村田和夫 ◆A4サイズ87ページ
◆価格 1,500円(税込)

読めばこの町が
もっと好きになる!



ご購入・お問い合わせ
さくら編集部
TEL 093-965-6080